

梅雨晴れの鎌倉散策

山内 裕子

平成二十七年六月二十二日

梅雨晴れの北鎌倉驛に降り立つ観光客多し。其の人波に雜じり明月院に赴く。門を潜るや參道にも傾斜地にも青き紫陽花咲き誇る。此れまさに憂き世を離れ天に近附く様なる晴やかさなり。自然界に青き花稀なり、勿忘草、露草、秋の龍膽の類あるも、梅雨空を彩る紫陽花の爽やかなる青、心を打つ。本堂の丸窓より覗く圓く切取られたる奥庭の花菖蒲も晝の如し。境内の前栽、竹林も清々し。高木の沙羅雙樹、別名夏椿の白き花二つ三つ落つる風情もよし。

人混み避け鎌倉五山第四位たる淨智寺に寄る。「寶所在近」の扁額あり、杉木立の參道の磨減りし石疊の先、柏槇、高野槇の大樹あり。白雲木も蠟梅も實たわわなり。阿彌陀如來、釋迦如來、彌勒菩薩の三世佛禮拜。七福神の布袋尊の黒光りしたるお腹を擦り、破顔一笑の朗らかさ心に響く。葵門を出で脇の山路を登る。

葛原岡に二十分、更に大佛坂切通しに四十分の道程なり、木の根を踏み鳥の囀りを聞き緩やかなの起伏ある尾根を只管歩く。踏み固められたる土の感觸快し。子供の一羣來り「こんにちは」と挨拶するも森の中ふと人戀し。道すがら源氏山公園にて賴朝像に一禮、清らなる水湧き出づる錢洗辨天參拜。芳香放つ山百合、眞白き大輪の泰山木、橙色の凌のう霄花ぜんかう、黄金色の蕊びあうやなぎの未央柳も花盛りなり。

大佛坂切通しに至り散策路はバス道路に至るも古道を擇ぶ。鎌倉時代に造られたる七切通しの一なり。三方山に圍まれ海に面する鎌倉の出入口たる切通し、往時の趣を遺す。閑寂なる古道に紋白蝶二匹の姿、緩やかなる時間流れけり。

露座の大佛、御靈神社參拜、極樂寺切通しより眼下の海を一望、心地よき汗に涼風を浴び、一日の行程終る。同行四人、今秋再度の鎌倉散策を約す。

(平成二十七年八月十二日受附)